



13
419
y

東京大学図書印

五ノ巻



1419
1

書林堂



小六

流源平治武清子

全叙
六母

口と



毒魚... 今度源平... 息子... 其頃... 海老... 時勢... 宗家... 希の...
(Note: This is a transcription of the handwritten text on the page, which is highly stylized and difficult to read accurately without a glossary.)

五月吉日



序

蠟牛の角はさう何事り奉ふ
 誠小浮海乃一粟と一夢
 夢思と念り種ふも夢の
 中に夢をばやうと一休有は
 宿生の元無なる事とや
 胡言えまはむとめて夕に
 秋中為夢を夢と一秋の
 夏東に万殊乃を後とや
 われど天地のる一處に幾場
 ぬ是る一源平に盛衰や
 こころ一まに置るも露と

夢を夢とばむい夢夢の夢
 万を浮世に夢も作らば
 異るんや四海の夢一毛孔
 り寄るは後とや一夢い
 被凍平に夢を今世の風流
 うとせ自身と夢号とや
 流る一六冊と編むれば果は
 一夢にばるべ一春の夢
 乃午懸の夢別はなりぬ

寶曆辛酉
 初着

はきりの七夜(しちや)の夜(よ)はうららかに
あけがたのまはるる子(こ)はせむ
のこゆはかりまはるる子(こ)はせむ
が。今(いま)は金(かね)を義(ぎ)氣(ぎ)とてしめしめ
とあまきま。海(うみ)へはまをよるる
一(ひと)本の橋(はし)をたてしめしめ
根(ね)籍(せき)者(もの)とてしめしめ
月(つき)重(かさね)のうららかに
啼(な)く月(つき)の影(かげ)は
をあらたにせむるのこゆはかり
ひねられたるる。うららかに
よまき。あまき。あまき。あまき。
松(まつ)のうららかに。松(まつ)のうららかに。
んとて。うららかに。うららかに。

つじゆがわたりうららかに
あけがたのまはるる子(こ)はせむ
のこゆはかりまはるる子(こ)はせむ
が。今(いま)は金(かね)を義(ぎ)氣(ぎ)とてしめしめ
とあまきま。海(うみ)へはまをよるる
一(ひと)本の橋(はし)をたてしめしめ
根(ね)籍(せき)者(もの)とてしめしめ
月(つき)重(かさね)のうららかに
啼(な)く月(つき)の影(かげ)は
をあらたにせむるのこゆはかり
ひねられたるる。うららかに
よまき。あまき。あまき。あまき。
松(まつ)のうららかに。松(まつ)のうららかに。
んとて。うららかに。うららかに。







